

## <幼稚園教育>

# 先生や友達と楽しく食べるための環境の構成や援助の工夫

## ～身近な野菜の栽培活動を通して～

糸満市立糸満南幼稚園教諭 大城美加子

### I テーマ設定の理由

生涯にわたって健康な生活を送るためには健全な食生活は不可欠である。

平成 17 年に施行された食育基本法の前文では、「食育は生きる上での基本であって、知育、徳育、及び体育の基礎となるべきもの（抜粋）」と位置づけられた。

近年、食生活を取り巻く社会環境の変化等に伴い、子どもに食生活の乱れや健康に関して懸念される事項、例えば朝食欠食や偏った栄養摂取等の食生活の乱れ、肥満傾向の増大、過度の痩身がみられるところである、また増大しつつある生活習慣病と食生活の関係等も指摘されており、望ましい食習慣の形成は国民的課題である。特に成長期にある子どもにとって健康な心と体を育てる食習慣の形成が難しくなっている。

平成 20 年に公示された「幼稚園教育要領」における心身の発達に関する領域「健康」の「内容」に「先生や友達と食べることを楽しむ」とあり、「内容の取り扱い」では「健康な心と身体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への関心を持ったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。」と記されている。

本園の実態を見てみると、朝食の内容が「ごはんとおかず」が最も多かったが、中には「おにぎりだけやごはんだけ」「パンだけ」「果物だけ」も少数ではあるが見られ、栄養の偏りが気になった。週 2 回の弁当会の内容を見ると、野菜が入っていない、果物の量が多い等、栄養の偏りや個々の弁当の量に違いが目立つ。幼児の中には朝から元気がない、遊びに集中できない等、気になる姿が見られた。本来、食生活の基本は家庭において育まれるものであって、幼稚園はあくまでサポートする立場であるが、食生活の乱れが進む中で、保護者が望ましい食生活を実践できていない実態も散見された。しかし、私のこれまでの「食」に関する保育を振り返ると、幼児が食べる意欲が持てるような環境の構成をしていたか、援助はどうだったか、空腹感を感じるような園の生活リズムになっていたのだろうか、食べる雰囲気作りはどうだったか等、反省することが多々あった。

そこで本研究において「食」への関心を高めるため、身近な野菜の栽培活動を通し、先生や友達と一緒に楽しく食べるための環境の構成や援助の工夫を探っていきたい。そして、野菜を親子で育てる楽しさ、収穫する喜び、家庭に持ち帰っての親子の会話等、いろいろな体験が先生や友達と楽しく食べる喜びを味わうことにつながり、様々な食べ物への興味や関心が広がっていくと考え、本テーマを設定した。

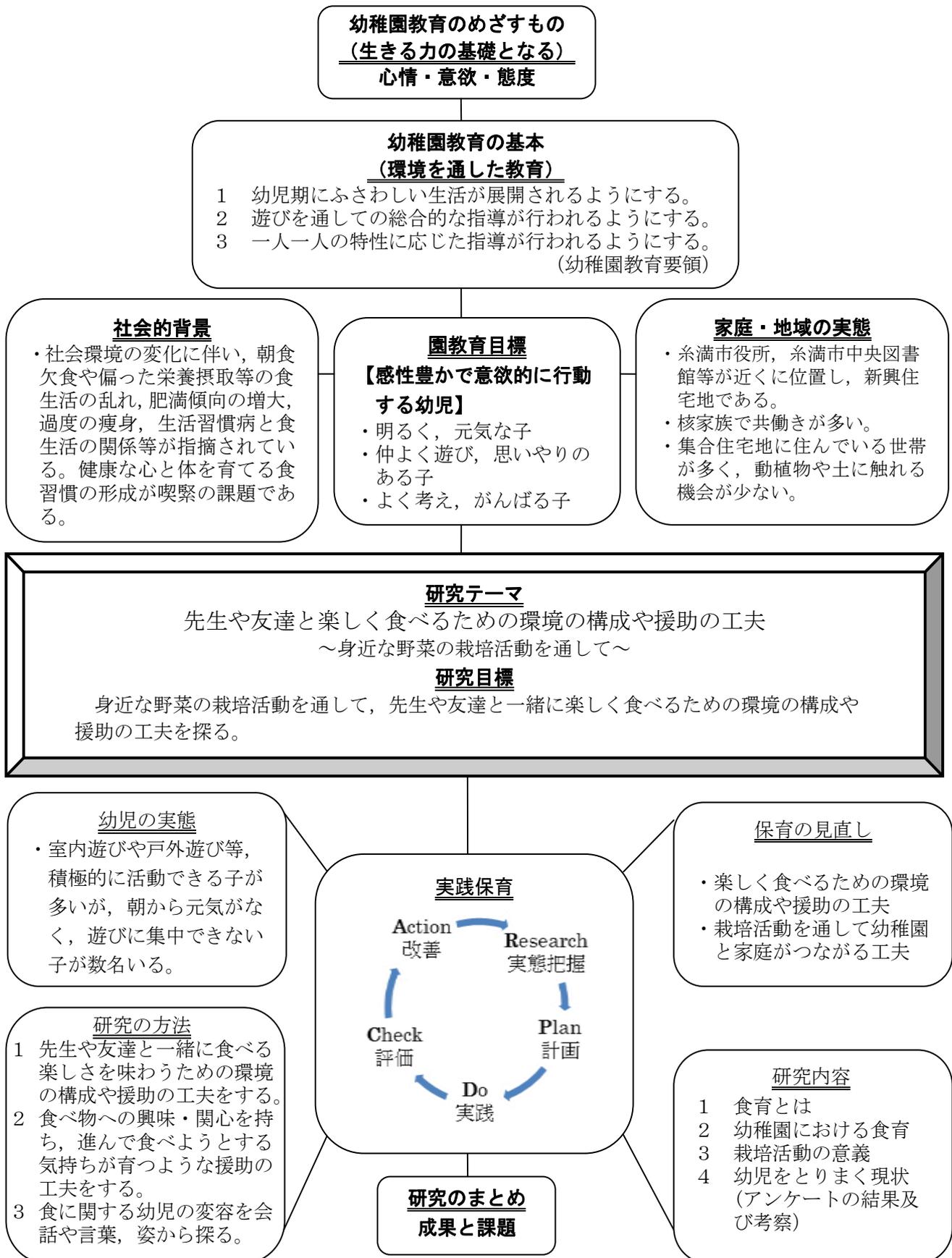
### II 研究目標

幼児が身近な野菜の栽培活動を通して、先生や友達と一緒に楽しく食べるための環境の構成や援助の工夫を探る。

### III 研究の方法

- 1 先生や友達と一緒に食べる楽しさを味わうための環境の構成や援助の工夫をする。
- 2 食べ物への興味・関心を持ち、進んで食べようとする気持ちが育つような援助の工夫をする。
- 3 食に関する幼児の変容を会話や言葉、姿から探る。

#### IV 研究構想図



## V 研究内容

### 1 食育とは

食育について、「幼稚園における食育に関する調査研究」の報告書を参考に以下のようにまとめた。

#### (1) 食育の定義

- ① 生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの。
- ② 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

#### (2) 食育の目的

- ① 心と人間性を育てること。
- ② 健康な体のしくみを育てること。
- ③ 食の知識を増やし、食べるために必要な技術や食べ物を選ぶ能力を育てること。

#### (3) 食育のとらえ

- ① 子ども達が自分で自分の健康を守り、健全で豊かな食生活を送る能力を育てること。
- ② 指先、手、目、耳、鼻を使い、舌で味わう料理を通して、視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚の五感を育てる。
- ③ 食は心の栄養であり、愛、団らん、触れ合い、付き合い、分かち合い、もてなしなどのコミュニケーション能力を育てる。
- ④ 食を通じて、人々が築き、伝承してきた様々な文化を理解し、作り出す力を育てる。
- ⑤ 自分も含めたすべての命を大切にする力を育てる。

### 2 幼稚園における食育

幼児は、先生や友達と会話を交わしながら、一緒に食べるという雰囲気に慣れていき、皆と一緒に食べることを楽しむようになる。それで、教師は和やかな雰囲気を作り、幼児が教師や友達と楽しく食べることができるように環境を構成する必要がある。また、幼児が様々な食べ物への興味や関心を持てるようにする事も大切である。

食べる喜びや楽しさ、様々な食べ物への興味や関心を通じて、幼児の中に進んで食べようとする気持ちが育つように食べ物大切さや食べ物への感謝の気持ち、ひいては美味しいものを作ってくれた人たちへの感謝の気持ち等が芽生えるよう、配慮も合わせて行う。

これらを受けて、本幼稚園では次のように食育を推進し子ども達を育てていきたいと考える。



### 3 栽培活動の意義

身近な野菜の栽培活動において、野菜が皆の世話によって徐々に生長していくにつれて、幼児は生命あるものを大切にしようとする気持ちを持つとともに、皆と一緒に育てたから大切にしなければならぬといった気持ちも持つようになる。また、野菜が生長する過程を観察することで「どんな花が咲くだろう」「どんな実がなるだろう」等、探求心もわいてくる。

このような様々な気持ちを引き起こすような豊かな環境の構成と身近な野菜との関わりを深めることができるように援助することが大切である。

幼稚園における栽培活動の意義を下記のように捉えてみた。

- ・野菜を育てることで、野菜の種類や特徴（生長の様子、色、形、におい、花、実の付き方等）を観察し、知ることで興味・関心が高まる。
- ・野菜の世話をすることで、生長の喜びや野菜を大切に育てようとする心が育つ。
- ・野菜に興味・関心が高まり収穫して「食べたい」という意欲を持つ。
- ・収穫の喜びを味わい、調理し食することで食べる喜びを味わう。
- ・苗植え、収穫、調理、食の一連の活動を通し、食への感謝の心が育つ。

### 4 幼児をとりまく現状（食と健康に関するアンケートの結果及び考察）

調査内容：食と健康に関すること

調査方法：アンケート（全16項目）

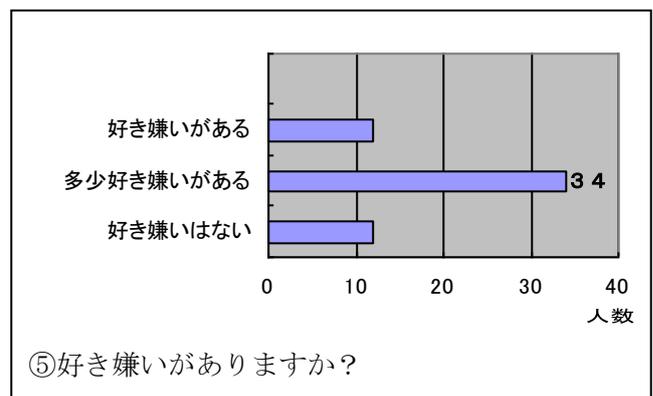
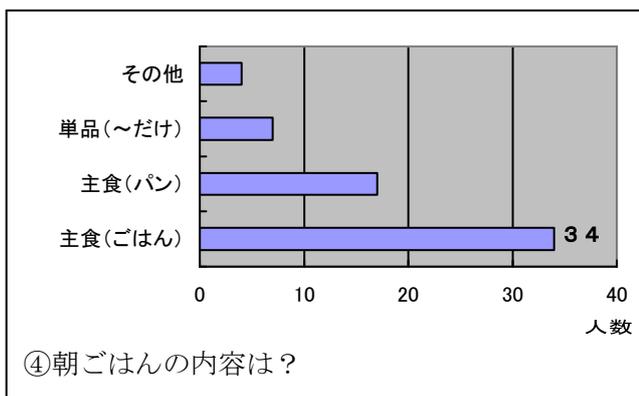
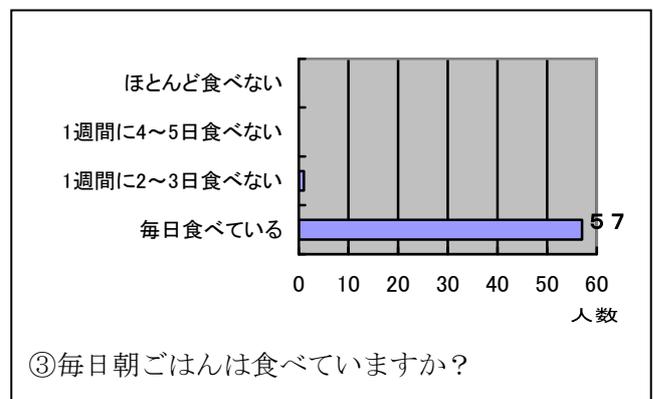
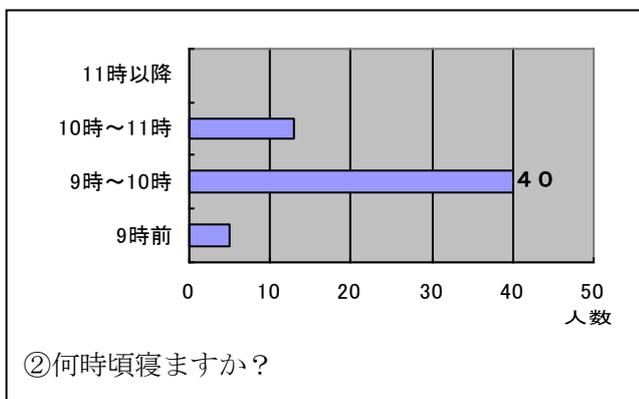
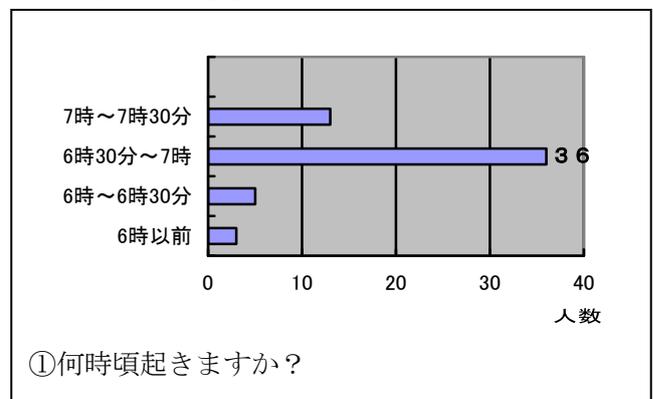
実施時期：5月

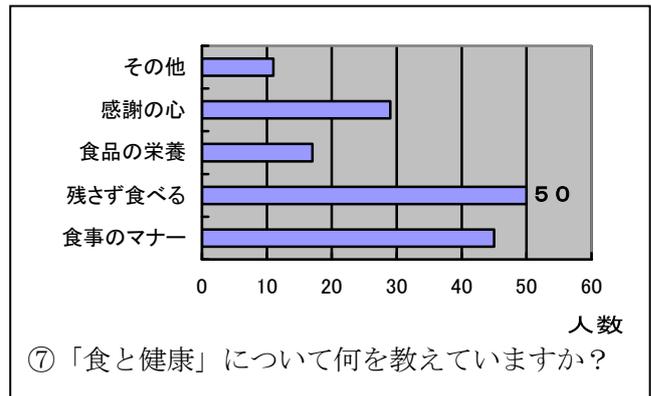
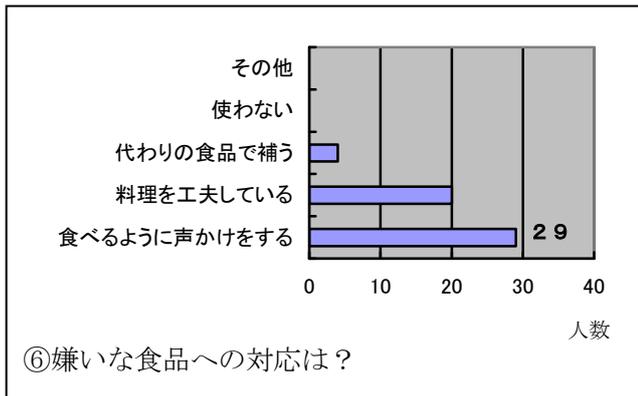
調査対象：幼稚園保護者

（61名中58名提出・回収率95%）

※質問7項目について結果及び考察する。

※④⑦は複数回答あり。





### 〈結果及び考察〉

- ・起床時間が7時以前と答えた幼児が78%、就寝時間が10時以前と答えた幼児が78%いた。「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣を家庭で身に付けさせようと努力している。(①②)
- ・朝食は98%の幼児が「毎日食べている」と答えている。(③)
- ・朝ごはんの内容は「ごはんとおかず」「ごはんと汁物」の2品が43%、「ごはんとおかずと汁物」と3品摂取している幼児が15%、約半数以上が朝食摂取に配慮しているのが見られる。しかし、おにぎりやごはん、パン、果物だけの単品食事が14%いた。朝食は一日のエネルギー源であるので、バランスのとれた朝食を摂る食習慣の確立を家庭と連携して取り組む必要がある。(④)
- ・好き嫌いの有無については「多少なり好き嫌いがある幼児は」79%と高い。また、91%の保護者が好き嫌いをなくそうと努力しているので、家庭と幼稚園が協力して偏食の改善に努めたい。(⑤⑥)
- ・保護者の食に関するマナーや食に関わる事項への意識が高いことが伺えた。(⑦)
- ・保護者と幼児、家庭と幼稚園が食への興味関心を共有するには栽培活動が有効ではないかと考える。

## VI 研究の実際

幼児が栽培活動を通して、食べる喜びや楽しさを味わうための環境の構成や援助の工夫をし、5回の保育実践を行い改善していく。

### 1 保育実践

「親子菜園を作ろう」 4月～

#### (1) 設定理由

保護者と幼児、家庭と幼稚園が食への興味関心を共有するには栽培活動が有効ではないかと考えた。また、苗の植え付け、水やり、収穫等の一連の作業を通して野菜に愛着を持つことで、楽しく食べる意欲につながっていく。そのための環境の構成や援助を探っていきたい。

#### (2) 保育のねらい

- ・「親子菜園作り」を通して、親子で野菜への興味関心を共有する喜びを味わう。

#### (3) 検証のねらい

- ・親子で野菜の苗を植え、幼児が世話をすることで野菜に興味関心を持ち、育てた野菜に愛着や親しみを持つことができるような環境の構成や援助の工夫をする。

#### (4) 環境構成と援助の工夫

- ・親子で野菜の苗植えができるよう畑を個人用に分筆する。
- ・前もってどの野菜を植えたいか聞き、表示する。



親子で苗植えに挑戦中！



植えたい野菜の表示

- ・世話をしながら野菜に興味関心が持てるような環境の工夫をする。

#### (5) 幼児の変容

- ・親子で苗植えをしたことで、楽しみながら世話をする様子が見られた。
- ・親子で世話をし、収穫するという一連の活動をする中で家庭での会話が増え、野菜に対して親しみを感じ楽しみながら世話をするようになった。

#### (6) 検証の成果と改善点

- ・親子で苗を植え、野菜の生長を楽しみながら支柱立てや草抜き等の世話をすることで、野菜に興味関心を持つことができた。
- ・収穫した野菜を持ち帰り、家庭で料理して食べたことで共通の話題ができ喜びにつながった。より栽培活動に意欲的に取り組むようになった。
- ・収穫の時期に差があり、野菜の持ち帰りには個人差があるので、幼児と相談が必要である。



降園時に一緒に草抜き！

### 「世界で一つだけのランチョンマット作り」 6月1日

#### (1) 設定理由

親子菜園作りを通して、野菜に興味関心を持って栽培活動に意欲的に取り組むようになった。野菜の世話をする中で、生長の様子にも関心を持って観察しているため、手作りのオリジナルランチョンマットを製作し、弁当やおやつを楽しく過ごすための環境の工夫をしていきたい。

#### (2) 保育のねらい

- ・オリジナルランチョンマット作りを通して野菜の生長過程に興味を持ち、不思議さに気付く。
- ・弁当やおやつ時間にオリジナルランチョンマットを使うことで楽しさを味わう。

#### (3) 検証のねらい

- ・野菜の生長に興味関心を持たせながらオリジナルランチョンマット作りができるような援助の工夫をする。
- ・オリジナルランチョンマットを使うことで、おやつや弁当を楽しく過ごすための環境の工夫をする。

#### (4) 環境構成と援助の工夫

- ・絵を描く前に皆で畑に行き、水やりをしながら野菜の形や葉っぱ、花等を観察する。
- ・色々な縁取り模様のマットの台紙を準備する。

#### (5) 幼児の変容

- ・おやつや弁当時にランチョンマットを使うことで、描いた野菜について先生や友達との会話が増えた。
- ・オリジナルランチョンマットを丁寧に扱う様子が見られた。

#### (6) 検証の成果と改善点

- ・オリジナルランチョンマットができ、とても喜んでいて。ランチョンマットを使うことで楽しくおやつや弁当時を過ごすことができた。
- ・友達との会話が広がり野菜に興味関心が高まっていった。
- ・野菜の絵を描く事で、栽培物を細かく観察するようになった。
- ・自分が植えた野菜を収穫し、観察しながら、野菜の絵を描く等の工夫が必要である。



ランチョンマット作り！



出来上がり！



楽しいおやつタイム！

## 「野菜の歌」からリズム遊びやクイズ遊びへ 6月～

### (1) 設定理由

ランチョンマット作りを通して、自分が植えた野菜以外の栽培物にも関心が出てきた。色々な野菜の名前が出てくる曲「野菜の歌」「栄養の歌」を教材として取り入れ環境の構成や援助の工夫をしていきたい。

### (2) 保育のねらい

・色々な野菜があることに気づき、野菜の名前を知る楽しさを味わう。

### (3) 検証のねらい

- ・「野菜の歌」「栄養の歌」を教材として保育に取り入れ、リズム遊びやクイズ遊びに展開できるような環境の構成や援助を行う。
- ・「野菜の歌」「栄養の歌」の歌詞を覚えることで野菜に興味関心を持たせる環境の構成を行う。

### (4) 環境構成と援助の工夫

- ・園児が使いやすいコーナーにラジカセを準備する。
- ・歌の歌詞や、曲に合わせてクイズ遊びができるように教材を準備する。
- ・一緒に踊ったり遊んだりすることで楽しさを共有していく。

### (5) 幼児の変容

- ・野菜の歌からリズム遊び、クイズ遊び、野菜のお面作りに発展していった。
- ・曲が聞こえたとお面を準備してリズム遊びを楽しみ、リズムや歌詞を覚えて歌ったり、踊ったりしている。
- ・歌を歌いながら、畑の水やりや収穫を楽しんでいる。歌詞に自分が植えた野菜名を入れて、歌う子もいた。

### (6) 検証の成果と改善点

- ・歌を教材として導入したことで、いろいろな野菜の名前や栄養に関心を持ち始めている。
- ・野菜のお面を作ったことでリズム遊びが盛り上がった。教材としての曲探しが必要である。



皆で踊って楽しいな！



クイズ遊びに夢中・・・！



歌詞の表示！

## 「ネギヒラヤーチーを作ろう！」 6月25日

### (1) 設定理由

野菜の歌の導入を通して、色々な野菜の名前を覚える事ができ、リズム遊びやクイズ遊びを幼児同士で進めている。

菜園から、ネギを収穫し家庭に持ち帰って料理して「美味しかった」「幼稚園でも作ろう！」との声が出たので、先生や友達と楽しく食べるための保育を設定していきたい。

### (2) 保育のねらい

- ・自分達で収穫したネギやピーマンを使い、調理する楽しさを味わう。
- ・先生や友達と食べる楽しさを味わう。

### (3) 検証のねらい

- ・調理する事を楽しむ事ができるように環境の構成や援助の工夫をする。
- ・収穫したネギを使って、調理し食することで先生や友達と楽しく食べる事ができるような援助の工夫をする。



ピーマン収穫！



初めての包丁に・・・

#### (4) 環境構成と援助の工夫

- ・水やりをしながら畑の野菜を収穫しに行き、どのくらい自分が育てている野菜が生長しているか確認させる。
- ・収穫したネギやピーマン入りヒラヤーチー作りができるように用具や材料を準備する。
- ・包丁使用時のケガや、調理中の火傷等の安全面に配慮する。

#### (5) 幼児の変容

- ・生のネギやピーマンの味見をし、「ネギのにおいがする。」「あっ、美味しい!」「ピーマンの味がする!」「苦い!」…と色々な表現をしていた。
- ・ほとんどの子が初めて包丁を使いネギを切ることができ、調理することを喜んでいた。
- ・自分で収穫したピーマンやネギを使って調理したことが楽しくて「次も作ろうね!」「今度は何作る?」等、会話が弾んでいた。

#### (6) 検証の成果と改善点

- ・初めて包丁を使う幼児が多くいたが、喜んで調理し食べる姿が見られた。
- ・今回は素材の味を味わってもらうために、ソースなしのシンプルなヒラヤーチーにしたが好き嫌いがあり、よく食べる子と、あまり食べない子がいたので配慮が必要である。



## 2 検証保育

「野菜入りヒラヤーチーを作ろう!」 7月5日

### (1) 設定理由

ネギヒラヤーチー作りを通して、幼児から「また、作りたい!」「今度はソースがあったほうがいいな!」「お母さんから作り方聞いてくるね!」等、自分達でどのように作ったら美味しくなるか意見や会話が弾んでいた。前は素材の味を味わって欲しいと思い、ソースなしのシンプルなヒラヤーチーを作ったが、本時では幼児から色々な意見や考え方を聞きながら一緒に相談して材料を準備していくことにする。

幼児から「美味しくなるポイント①…味付けには塩を使う!」「美味しくなるポイント②…自分達で作る!」等の意見もあった。皆でポイントを決めていく。

前時で材料の野菜を切るだけの作業だったので、自分達で野菜を収穫し、調理することで、より楽しく美味しく食べることに繋がるように活動を工夫していきたい。

### (2) 保育のねらい

- ・自分達で育てた野菜の収穫を喜び、調理することで先生や友達と楽しく食べることを味わう。

### (3) 検証のねらい

- ・自分達で育てた野菜を使って先生や友達と調理する事で「食べたい」「美味しそう」という気持ちをもたせるような環境の構成や援助の工夫をする。

### (4) 環境の構成と援助の工夫



新鮮な野菜は野菜コーナーへ!

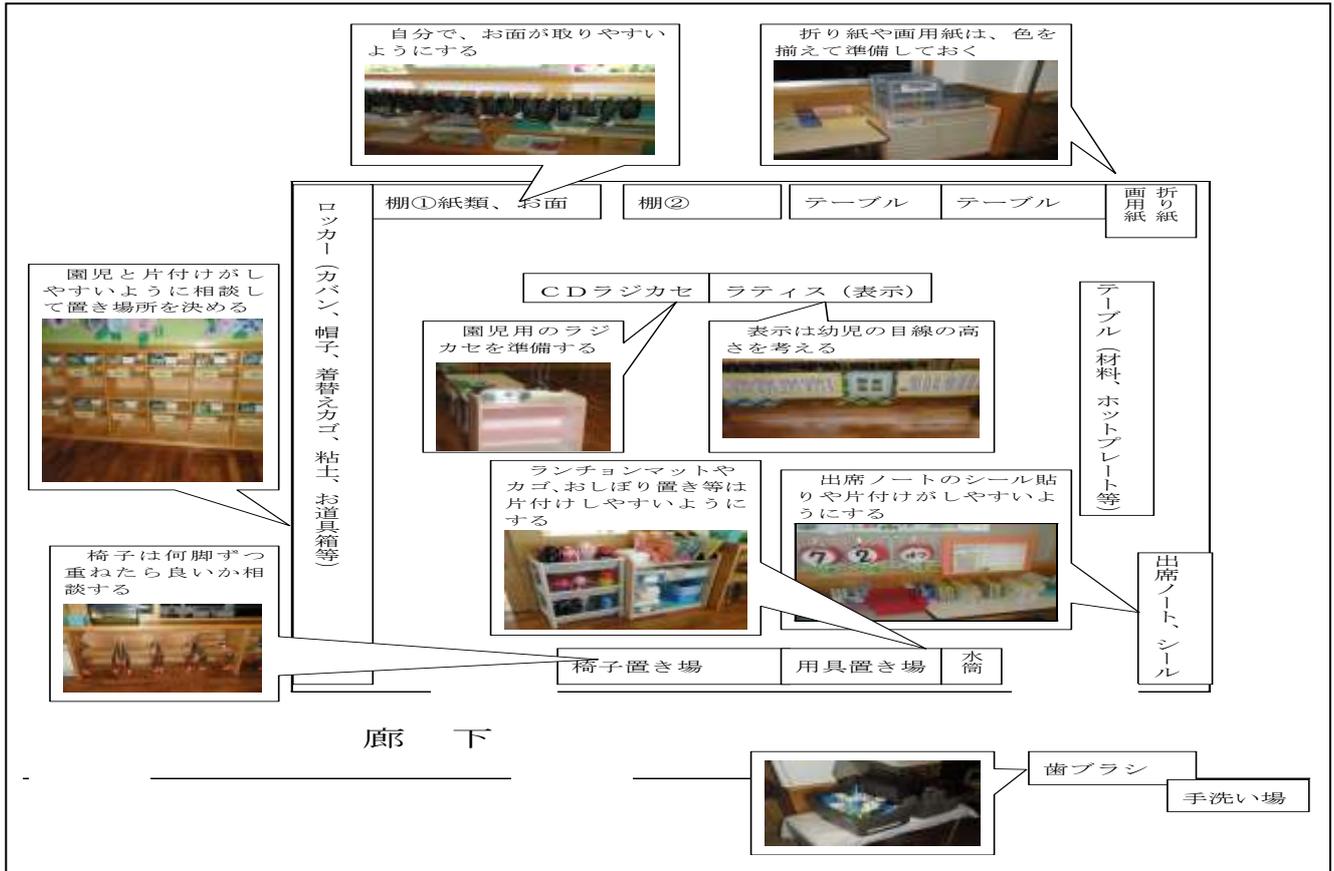


材料係を相談して調理開始…!

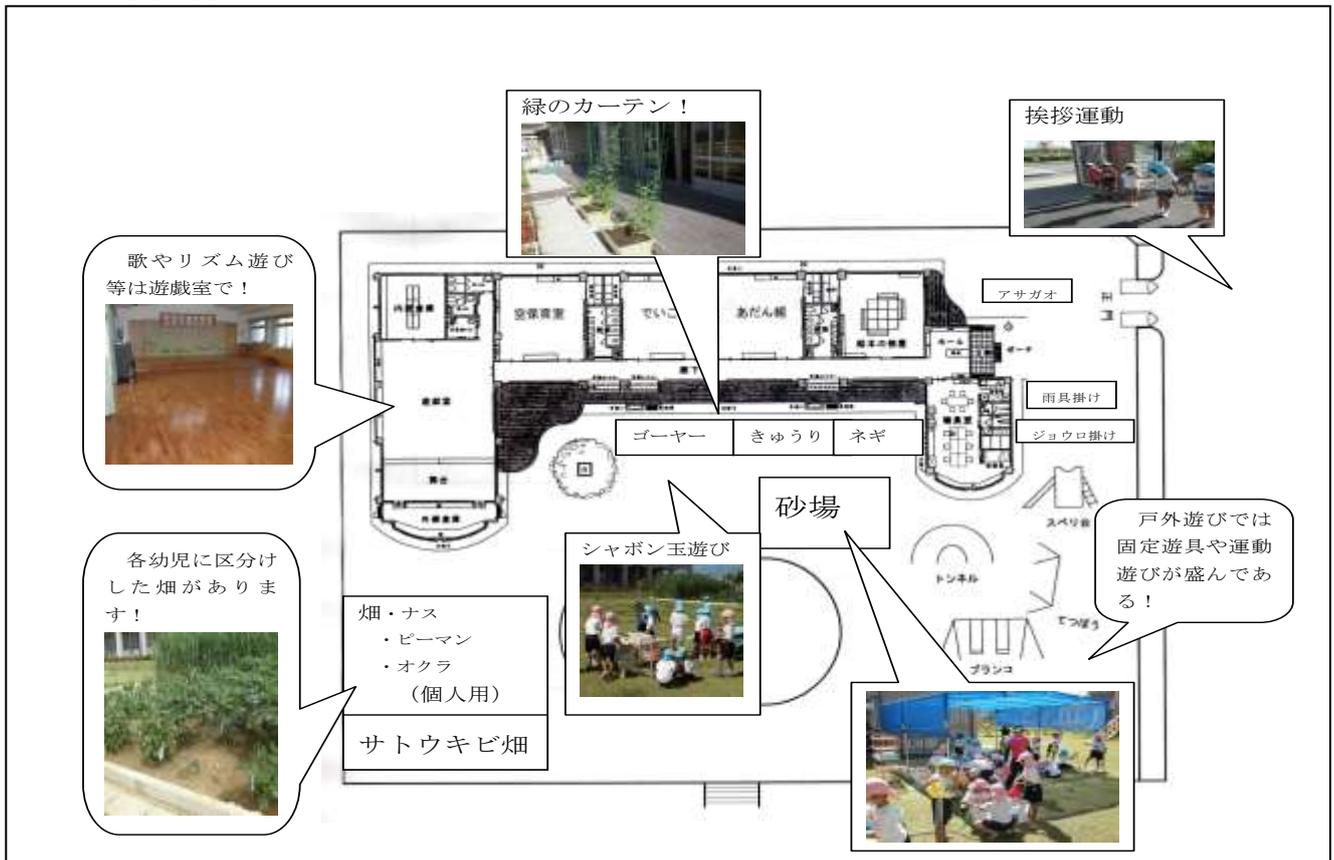


おやつ準備OK!

(5) 室内環境図



(6) 園庭環境図



(7) 保育の展開 (本時)

日案 平成24年7月5日(木) 男14名・女17名 計31名 あだん組 担任 大城美加子		
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜や草花への水やり, 世話をしながら「大きくなっている!」「ナスができていますよ!」「オクラの花が咲いている!」等, 気付いたことを教師や友達に伝え, 栽培物の生長を喜ぶ姿が見られる。</li> <li>・グループの友達が決まり, 当番活動(牛乳当番, テーブル当番, ふきん当番等)に意欲的に取り組んでいる姿が見られる。</li> </ul>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収穫の喜びを感じながら, 先生や友達と「野菜入りヒラヤーチー」を作り, 食べることを楽しむ。</li> <li>○いろいろな材料や用具を使って, 調理する事を楽しむ。</li> </ul>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生や友達と相談してヒラヤーチーを作る。</li> <li>・遊んだ後やおやつ準備の前は, 手洗い・うがいができるようにする。</li> <li>・グループでおやつ準備をし, 楽しくおやつ(野菜入りヒラヤーチー)を食べる。</li> </ul>	
時間	◇予想される幼児の活動	環境構成(○)と教師の援助(☆)
8:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇登園する</li> <li>・朝の挨拶運動をする</li> <li>・元気に挨拶をする</li> <li>・持ち物の始末, 着替えをする</li> <li>・出席ノートにシールを貼る</li> <li>・絵本を借りる</li> <li>・栽培物の水やりや収穫をする</li> <li>◇手洗い, うがいをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆幼児の登園の様子を見守りながら, 笑顔で挨拶を交わし温かい雰囲気で見守るようになる。早めに登園した園児は, 小学校の正門で挨拶運動に行くように促す。</li> <li>☆持ち物の始末を忘れていた子には必要に応じて声かけをする。また自分ですらうとする姿を認めながら, 一人一人に応じた言葉かけや手助けをする。</li> <li>☆○収穫した野菜を幼児と確認し, 友達が観察しやすいように, 玄関のテーブルへ「きょう, とれたやさいです。」を表示し野菜コーナーを設置する。</li> <li>☆動植物と触れ合う中で優しい扱い方や思いやりの気持ちに気付かせていく。先生も一緒に水やりをしながら生長の様子を知らせたり, 気付いたことを認めてあげたり他の子にも知らせていく。</li> </ul>
9:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇朝の集まり</li> <li>・今日1日の話し合いをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆元気いっぱいリズム遊びを楽しめるように, 先生も一緒にリズム遊びをしながら楽しさを知らせていく。</li> </ul>
9:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「野菜の歌」を歌い, リズム遊びをする</li> <li>◇テーブル, 椅子を準備する</li> <li>◇手洗い, うがいをする</li> <li>◇エプロン, 三角巾を着用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆各グループで机, 椅子等を準備できるようにする。</li> <li>☆前日に確認した, 材料係りをグループで相談して決めるようにする。</li> </ul>
9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「野菜入りヒラヤーチー」作りをする</li> <li>・ネギや小麦粉等の材料を合わせる(4グループで)</li> <li>・ホットプレート(2台)でヒラヤーチーを焼く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○☆ホットプレートやフライ返し, ボール, 小麦粉, 野菜などの材料を準備する。ホットプレートや用具の名前や使い方を知らせ, 十分安全に配慮し援助していく。ホットプレート等で火傷をしないように, 使用後も熱いので注意する。</li> </ul>
9:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇片付けをする</li> <li>◇手洗い・うがい・着替えをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆前日に準備した材料を確認しながら, 先生や友達と会話も楽しみながらヒラヤーチー作りが進められるようにする。</li> <li>☆スムーズに片づけができるように励まし, 頑張っている子を認めてあげたり, 先生も一緒に手伝ったりし片付いた後の気持ち良さを伝えていく。</li> </ul>
10:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇おやつ準備をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○☆曲に合わせて遊べるように教材を準備する。</li> </ul>
10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルを拭く, ランチョンマットの準備, 牛乳を配る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆おやつ前後の手洗い, うがい, 歯磨きなど清潔面や衛生面にも目を向けさせていく。</li> </ul>
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ヒラヤーチーを食べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆準備の仕方を確認しながらおやつ準備をして頂く。</li> </ul>



## (8) 検証保育（本時）の結果

### 【幼児の変容】

- ・いろいろな野菜の名前を覚えたり、野菜の歌でリズム遊びやクイズ遊びを楽しんだりする様子が見られた。
- ・グループの友達と「美味しくなるポイント」や材料の係を相談し、必要な材料を考える姿が見られた。

### 【成果と改善点】

- ・先生や友達と一緒に調理することで、喜んで食べる姿がみられ、皆と一緒に食べると美味しい、楽しいという満足感を味わった。
- ・時間的配分を考え、前日で野菜を切るなどの準備を行った。本時で一連の活動ができたなら、より先生や友達との感動体験を共有できたのではないかと。

### ☆栽培活動を通して変容した幼児の事例

#### 〈自分の意見が言えなかったHさんの変容〉

5月…親子で苗植えをし、毎日水やりを頑張っているHさん。しかし、個人の畑には草が沢山生えている。先生の「野菜に栄養がなくなるよ！草抜きしてあげたらいいよ。」の声かけに「…？」黙ったままのHさん。「一緒に草抜きしようか。」と促すと、「草はどれ？」と呟くように聞いてきた。「お母さんと一緒に植えた野菜はどれかわかる。」と問うと「これ…かなあ。」と不安そうにナスの苗を指差し答える「あたり！ナスは残して、草は抜こうね。」「うん！」安心した様子で草抜きを始めた。次の日からは水やりの後、草抜きをする様子も見られるようになる。

6月…ナスの花が咲く。「花が咲いたよ！」と先生や友達に、花を見せて大喜びしていた。実がつくと「今日はこれくらい。」と手で大きさを知らせに来る。

7月…プランターに植えているゴーヤーに小さな実がついているのを見つけたHさん。「先生来て。」と大慌てで先生を呼びに来る。「Hさん、すごいね！よく見つけたね。」と先生や友達から認められ、とても嬉しそうであった。その後も、チビゴーヤーの生長の様子を観察し、先生や友達に知らせに来るHさんの姿が見られた。他の幼児からも「Hさん、あんなに小さいゴーヤー見つけるなんてすごいね！」「Hさん、探すのが得意だね！」と一目置かれる存在となった。「前より少し大きくなってきたよ。」「花の色は黄色だよ。」「ゴーヤーの場所教えようか。」等、色々な面で積極的に先生や友達に関わり、自分の意見も言えるようになっていった。

#### 〈教師の読み取り〉

Hさんは初めての集団生活で友達と関われず、周りの様子を傍観していることが多かった。活動に対していつも不安げで、取り組むのに時間を要する子であった。畑の草抜きでは、「間違って野菜を抜いたら大変だ」と思い不安だったのでないか。先生と一緒に栽培物に関わったことで、安心して草抜きができるようになったのだろう。

野菜の生長を観察する中で色々な栽培物にも目を向けるようになったHさん。プランターのゴーヤーの存在に気付いたHさんの発見や驚きは、相当なものであったろう。先生や友達に栽培物の変化を知らせることで皆から認められ、感動する体験が共有できたことが自信につながり、色々な面で積極的に関わるようになっていったのだろう。



水やり頑張ります！



チビゴーヤー見つけた！

#### 〈色々な野菜に、興味関心を持ち始めたAさんの変容〉

保育で「野菜の歌」「栄養の歌」を教材として取り入れた。色々な野菜の名前が出てくるのに興味を持ったAさん。歌詞を見ながら「タケノコって何？」「エリンギって何？」と先生や友達に、どんな野菜か聞いていた。野菜の名前と実物が結びつかない様子であった。すると、「わかった！お母さんと買い物と一緒に行って、本当の野菜見てくるよ！」と良いアイデアをだしたAさん。数日後、野菜の曲が流れると「そうだ！エリンギとタケノコ見てきたよ。家で料理にも使っていたよ。」「また、買い物に行く時、色々な野菜調べてくるね。」…と、歌詞の野菜の名前をチェックするAさんだった。

#### 〈教師の読み取り〉

Aさんは野菜の曲を聞いて、知らない名前の野菜が多いことに気付き、驚いた様子であった。「どんな野菜だろう？」と興味関心が芽生え、調べる方法として「買い物と一緒に行く」と考えたのであろう。家庭での協力により実物の野菜を見て、知ることができ、より野菜に関心を持ち調べたいという意欲につながっていったのだろう。

## ☆栽培活動を通じた家庭での幼児との会話！（保護者より）

ピーマンの苗植えをした後の話

- (母)「大きくなっている？」  
 (子)「うん！これくらい(仕草で教える)。」  
 (子)「今日はお水、3回かけたよ！」  
 (母)「たくさんかけ過ぎたら、お腹いっぱいになって元気なくなるよ。」  
 (子)「(ピーマンが)お水いっぱいちょうだい〜って言ってたよ！」  
 (母)「(笑)」  
 (子)「早く食べたいなあ〜！」

オクラの苗植えをした後の話

- (母)「一緒に植えたオクラ大きくなって  
る？」  
 (子)「葉っぱが2枚で、背がこの位(手で高さを教えてくれた)でも、ちっとも大きくなっていないよ。」  
 (すぐ、大きくなると思っているようです)  
 (母)「お水たくさんあげないと、大きくなるから大丈夫だよ！」  
 (子)「良かったあ〜(笑)！」

ナスの苗植えをした後の話

一緒に植えた野菜を見に行きました。本人、土の中がどうなっているのか気になり、引っこ抜いたりしているようだったので、植え直しました。  
 「植えたナスが大きくなったら、天ぷらにして食べたい！」って言っています。



ナスの苗植えをした後の話

- (母)「お母さん達のなすび、  
どうなってる？」  
 (子)「雨がたくさん降って枯れちゃった。」  
 (母)「そして、どうしたの？」  
 (子)「もう1回植えたけど、  
また雨だから枯れているかも・・・」  
 (母)「じゃあ、今度お母さんも一緒に見に行こうね」

## Ⅶ 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 身近な野菜を植え、世話をし、食するという一連の栽培活動を通して、幼児の心を揺り動かす体験をさせることができた(VI-1, VI-2)。
- (2) 野菜を収穫し、調理して食べるという体験が、幼児が進んで先生や友達と食べる喜びや楽しさにつながっていった(VI-1, VI-2)。
- (3) 教材として「野菜の歌」「栄養の歌」を取り入れ、リズム遊びやクイズ遊びに展開する等の環境の構成や援助の工夫で、より野菜への興味関心を高めることができた(VI-1, VI-2)。

### 2 課題

- (1) 年間指導計画や栽培計画の工夫や見直し
- (2) 食への意欲を高めるための園生活の見直し

### 〈主な参考文献〉

- |           |   |         |       |
|-----------|---|---------|-------|
| 文部科学省     | 『幼稚園教育要領解説』   | フレーベル館  | 2008年 |
| 沖縄県教育委員会  | 『平成21年度 文部科学省指定 幼児教育の改善・充実調査研究報告書<br>幼稚園における食育に関する調査研究』 |         |       |
| 文部科学省     | 『食に関する指導の手引き』   |         | 2007年 |
| 無藤隆・柴崎正行編 | 『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』                                 | ミネルヴァ書房 | 2009年 |